

第二期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会（第10回）
議事要録

日時 平成25年03月12日（火）午後7時～午後9時00分

場所 クリーンセンター3F 見学者ホール

出席 小澤紀美子会長、水谷俊博副会長、新垣俊彦委員、島森和子委員、高石優委員、飯村雅洋委員、山崎君枝委員、平田昭虎委員、千綿澄子委員、木村文委員、藻谷征子委員、塩澤誠一郎委員、狩野耕一郎委員、越智征夫委員、高橋豊委員、早川峻委員、岡田敬一委員、村井寿夫委員、高橋健一委員、木村浩委員

事務局（馬場主査他）

コンサルタント（株式会社日建設計 高津敬俊主管他）傍聴者1名、記者0名

配布資料 1. 次第、2. 京エコロジーセンター視察報告、3. 施設周辺整備協議会報告書（案）、
4. 施設周辺整備協議会報告書（案）修正箇所一覧表、5. 3Rパンフレット（会長）、
6. “「すてる」と「つくる」をつなぐ仕事”（委員）

1 京エコロジーセンター視察報告

- ・事務局より、3/3に開催した京エコロジーセンター視察について報告があった。

（以下、質疑）

- ・委員 時間をかけて議論しているところが参考になった。この議論をもとに「人を育てる、人づくり」というコンセプトがぶれていないと感じた。広報も、他の施設とは少し違った作り方で地域の情報というよりは、地域の人取材をベースにしている、おもしろいと思った。また、環境に関する人材の育成に力を入れており、人とのコミュニケーションを重視している点がとても参考になった。ただし、地域を巻き込むような施設というより、もっと広い捉え方をしていると感じた。
- ・会長 京エコロジーセンターは京都市全域を対象とした施設である。また、京都大学が関与していないというまとめになっているが、実際には京都大学が事業運営委員会などに参画している。運営等にかかる費用については、クリーンセンターと考え方が異なるのであまり参考にならないかもしれない。
- ・委員 京エコロジーセンターは、周辺環境が殺伐としており、緑も少ない印象だった。京都市全域へのアピールとしては成功例だが、地域への貢献としてはもう一つだと感じた。また、クリーンセンターのごみピットを活用して、京エコロジーセンターに設置されていたアースピットをエコプラザでも実現できないか。
- ・会長 エコプラザの建物そのものを展示物とすること厳しいとの話もあったが、建物を壊さず改修して使っていく中で例えば風の道をつくるなど、色々な仕掛けが考えられるだろう。臭いの問題はあるかもしれないが、柔軟な対応が可能ではないか。

2 報告書のまとめ

- ・事務局より資料について説明があった。

(以下、質疑)

- ・**委員** P2 の下段図について、庁内推進本部の記載がない。当初の説明では、庁内推進本部は、周辺協議会と事業者選定委員会が連絡を取り合って進めていくものと思っていたが、庁内推進本部からの報告等はないのか。
- ・**市委員** P2 の下段図について、庁内推進本部の記載がない。当初の説明では、庁内推進本部は、周辺協議会と事業者選定委員会が連絡を取り合って進めていくものと思っていたが、庁内推進本部からの報告等はないのか。
- ・**委員** 庁内推進本部は周辺地域の課題に関する調整等に関与するものと思っていたが、今年度はそうではなかったようだ。今後はそういった議論が行われる可能性があるか。
- ・**市委員** 今期報告書が形になったので、これを受け市としてどう課題を整理できるかの検討がまずできることではないかと考えている。これを市がどのように考えていくか、また次期の協議会をどうやって進めていくか、しばらく時間をいただいて、庁内的な調整を含めて、また次のステップに進めていきたい。庁内推進本部が庁内の横断的な調整を図ることに変わりはない。長期的な視点でお考えいただきたい。
- ・**委員** 庁内推進本部の構成メンバーは、各局の部長級であったと思うが、今後スタートしていく際には組織図を提示してほしい。
- ・**会長** 組織図は出せるだろう。予算も重要であり、今後も市内部のプロセスを信頼して進めていくことになるので、庁内推進本部も幅広い関係者に関わってほしい。エコプラザのことを考慮して、教育関係者にもぜひ携わってほしい。京エコロジーセンターも、以前は学校関係との連携が取れていなかったことから子供の来場者が少なかったが、その後教育関係者が仲介することで市内の全生徒が訪問する施設になった。文科省も環境教育や持続可能な地域づくりに対して力を入れている。
- ・**委員** 京エコロジーセンターでは、環境に関する問題点を見てわかりやすく提示する仕組みが良くできていた。武蔵野市では、何を指して議論しているかが見えづらい。山梨県では、ソーラー発電に対して 35 年先に県内電力の受給自足を目指すというしっかりした目標を掲げており、その目標に向けた組織作り・具体的な議論を行うための仕組みができています。武蔵野市においても、例えば「低炭素モデルの実現」「地域力の向上、学習、雇用」と掲げた目標や課題に対して具体的に何をやるか、という議論を集中して行うプロジェクトが必要ではないか。京エコロジーセンターでは、人を育てる仕組みを工夫していた。人を育てるにはコミュニケーションが一番大事で、仕事や具体的な活動を通じてのコミュニケーションが有効だ。
- ・**会長** エコプラザに関してはまだ大まかな議論しかできていないので、今後の皆さんの議論において深めていってほしい。山梨の事例というのは、過去の見学会で行った場所なのか。
- ・**市委員** 現クリーンセンターの運営協議会主催の研修において、山梨県のメガソーラー施設を見学に行った。山梨県では、水やソーラーでの自給自足を目指している。目標の具体化については適切にステップを踏んでいくと同時に、今後の協議会においてプロジェクトチームのような取り組み方も考えられるが、今後の進め方についてはご意見をいただきながら検討していきたい。

- **会長** 低炭素モデルの一つの回答として、この施設ではエコセンターのエネルギーを周辺へ供給することが決まっているが、性能が不明なままではどれだけの供給量になるかがわからなかった。それが具体化しつつあると思う。人づくりなどについては、次のステップ以降で時間をかけて議論してほしい。まずは予算の確保が必要だろう。平成 31 年のエコプラザ完成までに、社会状況の変化も見ながら進めていってほしい。私は今年度で大学人としての任務を終えるが、市民参加の武蔵野市方式が実を結び、花を咲かせる日を楽しみにしている。市が本当に丁寧に進めてくれており、この武蔵野市方式を他の自治体に宣伝していく役割が私たちにはある。この報告書・提言書の細かな修正は来週火曜日までに提出してもらおうとして、その他大筋にかかる部分の意見があればお願いしたい。
- **委員** 次期以降、事業者が決まって設計が進んでいく中で、例えば外装や緑化計画について、周辺協議会とキャッチボールする機会がほしい。
- **市委員** 3月末に事業者が決定するので、決まった後であれば、建築デザインや見学者コース等に関するキャッチボールが可能になると思う。予算の話もありすべてが叶うわけではないが、特にソフト面に関してエコプラザとつながる部分も多いので、上手く連携する方法を検討したい。
- **委員** P22～P29 はエコプラザの検討内容であるが、この報告書に資料として入ることに違和感がある。
- **委員** P12 まではこのままで良く、それ以降のページとの差異が出れば良いのでは。
- **会長** これまでの議論の経緯を残しておくことは重要である。物事の重さを上手く表現できれば良く、そのために報告書本編と資料編に分けてあるものと思う。
- **委員** ハード面の記載がある P14～P21 について、エコセンターのごみ発電や防災対策などのハード面に関する記載を入れるべきである。
- **会長** デザイン方針は事業者選定の整備方針に入っているものなので、これを報告書に資料として入れることに違和感があると理解した。デザイン方針はすでに議論の末、決定したものであるから、報告書本編に入れることとしてはどうか。基本的に今期の周辺協議会では、エコプラザの基本的な内容について議論はしたものの、何かが決まったわけではないので、決まったこととまだ議論することを区分した章立てにしてはどうか。
- **委員** 提言と報告書は異なる性格であり、タイトルによって書き方や内容も変わってくると思う。
- **会長** P14 からのデザイン方針やエネルギー供給等は具体的な提言であるが、エコプラザに関する議論は提言には至っていない。
- **市委員** 建築デザイン、エネルギー、エコプラザ、タウンウォッチングが今回の大きなテーマであったが、建築デザイン、エネルギー供給に関してはすでに事業者選定の要求水準に盛り込まれた。一方でエコプラザ、タウンウォッチングについては次期協議会以降に引き継ぐものであるので、報告書という体裁が良いと考えている。
- **会長** 会長として、報告書の初頭にその旨の記載を入れておき、P21 までを提言として本編に入れ、エコプラザやタウンウォッチングについては資料編としてまとめることとして、最終的なまとめ方は座長預かりとしたい。

3 “「すてる」と「つくる」をつなぐ仕事”(委員)

- ・委員 (配布資料説明) アップサイクルやクリエイティブリユースといったエコプラザの今後の運営のイメージを気にしながら書いたものである。今後全国でこのような機能がつくられることを期待した文章であるが、この武蔵野市で最初に実現できれば良いと思う。

4 まとめ

- ・委員 生活環境影響調査について、本報告書に言及がないことについて説明願いたい。また、生活環境影響調査報告書の数字と概要版の数字が異なるものがあるが、ご説明いただきたい。
- ・市委員 生活環境影響調査については、別途生活環境影響調査に関する整理を行っている。数字については修正を行った。本協議会では、報告を行った事実のみを記載するに留めた。概要版を資料編に載せることは可能だが、事業者選定に関する報告事項という整理になる。また P12 の全体スケジュールに生活環境影響調査について言及している。
- ・会長 第一期も同様に、これまでの流れを考えると生活環境影響調査については記載していないし、この周辺協議会報告書では事実として報告があったことがわかれば良いと考える。ほかの自治体の報告書では、議論の過程が不明瞭なことが多いが、武蔵野市ではその過程を参考としてしっかり残している。次期以降もそういった流れを踏まえて議論していただきたい。
- ・会長 3R パンフレットは、経済産業省の外郭団体であるクリーンジャパンセンターがつくったものである。ビジュアルに、マンガ的にわかりやすい説明というのは難しいことであるが、その参考としてお持ちした。
- ・会長 時間があれば、リサイクルを実体験できる教材をお持ちして皆さんにやっていただきたい。ペットボトルのリサイクルの過程を体験できるキットがあるので、次期はそういったゲームから入っていくのも良いかもしれない。

5 その他

- ・市委員 直近のスケジュールについて説明する。本協議会では1年半あまり議論していただいた内容を報告書として取りまとめることができたことについて、事務局より感謝申し上げる。3/29には会長から市長へ報告をしていただく。お時間がある方はご参集いただきたい。その後、事業者選定に関する報告を行う。当日欠席の方には資料投函を行う予定である。
- ・市委員 今後のスケジュールについて説明する。まちづくり条例に従い、大規模開発基本構想届出、標識板設置、説明会の開催通知(4か所)を予定している。5/1 市報にて落札者決定をお伝えする予定である。また、クリーンむさしの地域集会で報告会をやらせていただきたいと考えている。6月議会を経て、8~9月に標識設置、10月に説明会を実施し、11月には準備工事、来年4月には本格工事、平成29年4月に工場棟が完成し、平成31年6月ごろにはエコプラザ完成の運びとなる予定である。次期協議会については、9月ごろからスタートできればと考えている。
- ・副会長 エコセンターは3月に落札者が決まるが、この周辺協議会で決めたデザインを基に事業者主体で進めていくことになるので、良いデザインになることを願っている。エコプラザについてはこれから皆さんと詰めの協議をしていくことになるが、設計の専門家として、質の高いデザインを行い、武蔵野市の活動の中心となる施設づくりを目指したい。またハード面だけでなく、プログラムの質も高め、地域に根差した広域デザインを実現していきたい。質の高い

デザインや活動をコンテンツとして世界に発信していくことができる時代であり、市民参加でつくるエコセンター・エコプラザというものがその例になれるような、良いものになるよう期待している。

- **委員** 3月の落札者決定と6月の事業者決定とあるが、両者が別でなく一緒のものと考えていたが、教えていただきたい。
- **市委員** 3月は落札者が決定するが市とは未契約状態であるので、6月に契約の議会承認を経て事業者が決定するということである。
- **会長** 市長報告を残して座長としての任を解かれることになる。もともこの土地の縁のある早稲田大学の寄本先生にお会いした際にクリーンセンターの建て替えが決まったことをお伝えしたが、一昨年3月28日にお亡くなりになった。寄本先生らが築いてきた、課題を一步一步解決していくという真摯なやり方を手本に、何とか座長の職を務めさせていただいた。委員の皆様と、丁寧にまとめてくれた事務局の皆さんに、改めて感謝申し上げます。

以上